【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和6年5月27日(2024.5.27)

【国際公開番号】WO2023/176248
【出願番号】特願2024-507597(P2024-507597)
【国際特許分類】
H01H 23/16(2006.01)
H01H 23/30(2006.01)
【FI】
H01H 23/16 Z
H01H 23/30

【手続補正書】
【提出日】令和6年2月29日(2024.2.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
筐体と、
操作者からタッチ操作及び押圧操作を受付ける操作部を有し、前記筐体に対して揺動可能に支持される操作パネルと、
前記筐体に収容される基板と、
前記タッチ操作を検出する静電検出電極と、
前記押圧操作を検出する押圧検出部と、
を備える入力装置であって、
前記操作部は、
前記タッチ操作及び前記押圧操作の両方を受け付ける第１操作部と、
前記押圧操作を受け付けず前記タッチ操作のみを受け付ける第２操作部と
を含み、
前記第１操作部が押圧された時に前記操作パネルが前記基板側に移動する動作と、前記第２操作部が押圧された時に前記操作パネルが前記基板側に移動する動作と、を異ならせる抑止機構を有する
ことを特徴とする入力装置。
【請求項２】
前記抑止機構は、
前記操作パネルから前記筐体に向けて延設された突起部と、前記筐体に設けられ前記突起部と当接する当接部と、を含むか、または、前記筐体から前記操作パネルに向けて延設された突起部と、前記操作パネルに設けられ前記突起部に当接する当接部と、を含み、
前記第１操作部が押圧された時には、前記突起部が前記当接部と当接しないことで前記操作パネルの揺動を抑止しないように設けられ、前記第２操作部が押圧された時には、前記突起部が前記当接部と当接することで前記操作パネルの揺動を抑止するように設けられている
ことを特徴とする請求項１に記載の入力装置。
【請求項３】
２つの前記押圧検出部を備え、
前記操作パネルは、前記第１操作部が押圧された時、前記基板と垂直な方向からの平面

視において、前記２つの前記押圧検出部のうち前記第１操作部までの距離がより遠い方の前記押圧検出部を支点として揺動し、前記第１操作部までの距離がより近い方の前記押圧検出部により、前記第１操作部が押圧されたことを検出される
ことを特徴とする請求項２に記載の入力装置。
【請求項４】
前記基板と垂直な方向からの平面視において、前記２つの前記押圧検出部のうち前記第２操作部までの距離がより遠い方の前記押圧検出部と前記突起部との距離は、前記突起部と前記第２操作部との距離よりも大きく設定されており、
前記操作パネルは、前記第２操作部が押圧された時、前記基板と垂直な方向からの平面視において、前記２つの前記押圧検出部のうち前記第２操作部までの距離がより遠い方の前記押圧検出部を支点として揺動するが、前記突起部により前記揺動を抑止され、前記第２操作部までの距離がより近い方の前記押圧検出部により、前記第２操作部が押圧されたことを検出されない
ことを特徴とする請求項３に記載の入力装置。
【請求項５】
前記抑止機構は、
前記筐体に設けられた、一対で揺動中心となる揺動軸の両端部を支持して前記操作パネルの揺動方向のみを規定し、その他の方向への移動を可能に係止する２つの係止部を含み、
前記基板と垂直な方向からの平面視において、前記揺動軸は、前記第１操作部と前記２つの前記押圧検出部のうち前記第１操作部までの距離がより遠い方の前記押圧検出部とを繋いだ線と交差し、
前記基板と垂直な方向からの平面視において、前記突起部は、前記揺動軸と重なる位置に設けられる
ことを特徴とする請求項３または４に記載の入力装置。
【請求項６】
前記基板と垂直な方向からの平面視において、前記第２操作部は、前記揺動軸と重なる位置に設けられる
ことを特徴とする請求項５に記載の入力装置。
【請求項７】
前記筐体は、前記基板を覆うように設けられ、前記操作パネルを揺動可能に支持している
ことを特徴とする請求項２から４のいずれか一項に記載の入力装置。